

## 土木学会鋼構造委員会 小委員会活動報告

小委員会名	鋼構造物のリダンダンシーに関する検討小委員会	委員長	奥井 義昭	連絡幹事	金子
活動予定期間	平成23年6月 ～ 平成26年5月				
活動の目的	リダンダンシーを考慮した鋼構造物の維持管理のあり方に関して提言することを目的に、リダンダンシーの評価方法に関する文献調査やケーススタディを実施する。これらの成果からリダンダンシー評価のガイドラインや、今後の研究の方向性について取りまとめを行う。				
前回鋼構造委員会報告後の活動状況	<p>第2回委員会（H23年10月11日）を大阪工業大学にて実施。        話題提供者は岩崎副委員長、林委員。委員会の活動内容について討議を行った。</p> <p>第3回委員会（H23年12月14日）を土木学会にて実施。        話題提供者は野中委員「連鎖的な部材破断を考慮した鋼橋のリダンダンシー解析法」、藤野委員「鋼アーチ橋の部材破断時のパラメーター解析」。WG1 概論に関するWG（主査：林委員）、WG2 形式別FCM検討に関するWG（主査：岩崎副委員長）、WG3 解析手法に関するWG（主査：山沢委員）の活動方針とメンバーが確定。</p> <p>第4回委員会（H24年4月16日）を土木学会にて実施。        話題提供者は加藤委員「鋼桁橋におけるリダンダンシー解析」、山沢委員「鋼トラス橋格点部の耐荷実験・解析及び耐力の簡易評価法について」。</p> <p>3つのWGより活動報告。        WG1 ではリダンダンシー解析の対象は、完成系に限定。リダンダンシー解析結果を既設橋の維持管理へ反映させることを目的とする。        WG2 ではトラス、アーチ、桁橋に注目し、橋梁形式別のFCMを選別し、橋梁形式毎・損傷ケースに応じたケーススタディー（リダンダンシー解析事例）を実施の予定。        WG3 では、トラス橋全体系のリダンダンシー解析、トラス格点部の耐力評価と簡易モデル化手法の検討を目的とした。</p>				
今後の活動計画	<p>3ヶ月に一度、小委員会を開催する。最初3回ぐらいまでは話題提供を通じて、委員間でリダンダンシー評価に関する情報を共有する。</p> <p>今後は主にワーキンググループにおける活動を中心に活動する予定。次回全体委員会は2012年7月17日（土木学会）にて開催予定。</p>				
目標成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>鋼構造物のリダンダンシー評価の考え方の提言とりまとめ</li> <li>「鋼構造物リダンダンシー評価のガイドライン」のとりまとめ</li> </ul>				
PRポイント					
その他					